

第4回茨木市中心市街地活性化協議会

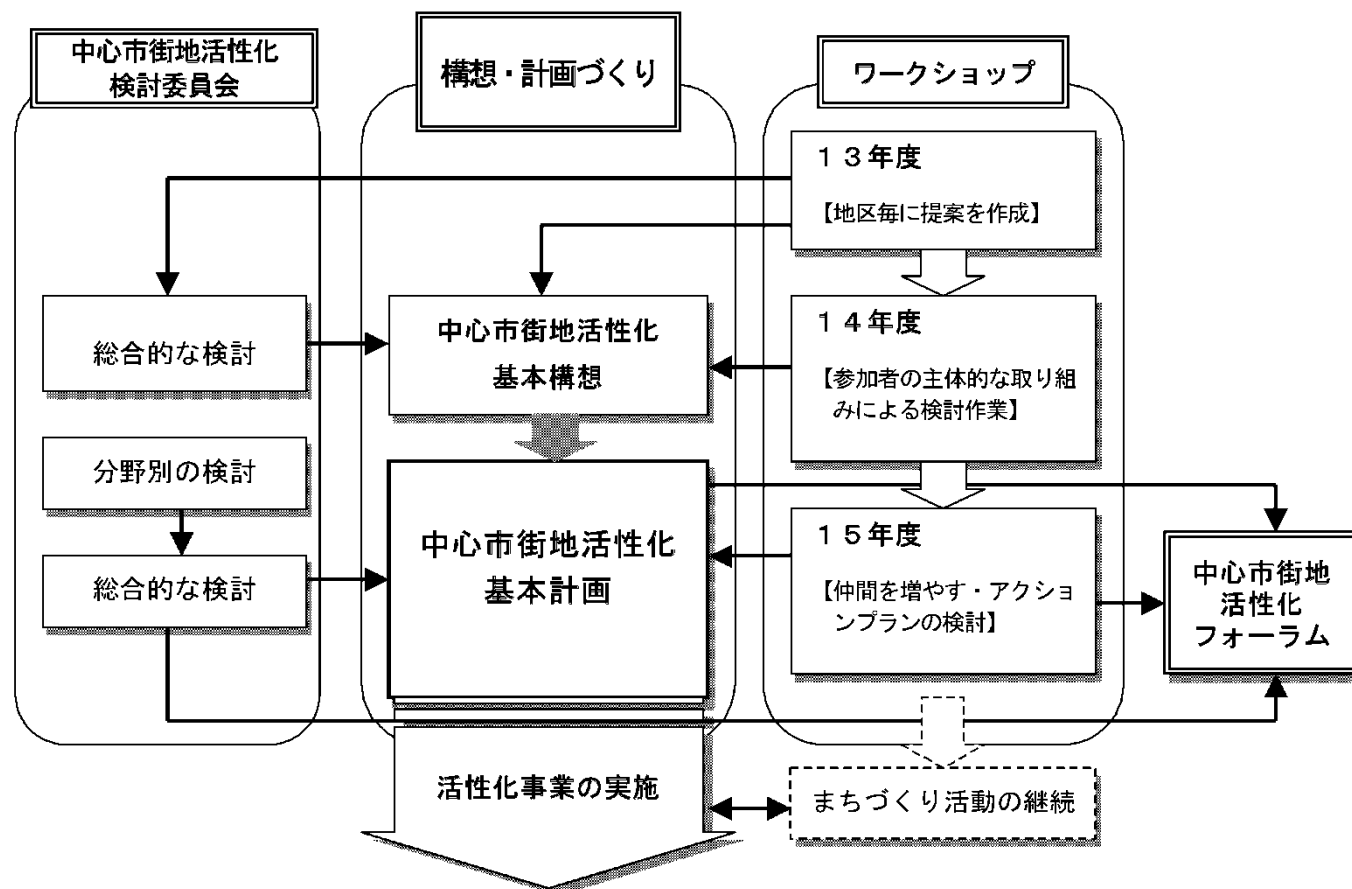
平成28年10月12日

(1) 中心市街地活性化の基本方針策定に向けた整理について

旧法に基づく基本計画の検証

(2) 旧計画の枠組み

中心市街地への「想い」が込められたもの
実施主体、実施時期の定めのない計画



旧法に基づく基本計画の検証

(3) 旧計画の実施状況 「居住」に特化した行動メニュー以外は「ほぼ着手」

○都市構造の強化を図るための事業

- ・阪急茨木市駅前自転車駐車場整備事業等
- ・茨木鮎川線整備事業、西中条奈良線整備事業、JR茨木駅東口駅前広場整備事業等

○商業等の活性化のための事業

- ・空き店舗対策研究事業、商店街活性化支援事業等
- ・茨木市提案公募型公益活動支援事業
- ・空き店舗実態調査事業、商店街活力アップ支援補助事業等
- ・メイドインいばらき(物産展)開催、商い魅力アップ事業等

○一体的に推進する事業

- ・茨木にぎわい亭の整備及び活用事業

旧法に基づく基本計画の検証

(3) 旧計画の実施状況

■未着手事業

[27]創業・起業を進める	・コミュニティビジネス育成支援 (産業活性化プロジェクト促進事業)
[31]賑わいを創出する	・統一イメージ作成支援
[32]利便性を向上させる	・共通駐車券システムの構築
[33]利用者の生活を支援する	・送迎保育ステーションの整備 ・宅配・FAXサービス代行事業 ・買物サービス代行事業 ・買物手押し車等レンタル事業
[34]集客機能を向上させる	・商業インキュベータ施設等の整備 ・大型空き店舗の活用 ・テナントミックス管理 ・マルチメディア交流施設整備

旧法に基づく基本計画の検証

(4) 効果と課題

① 効果

○市民等参画型計画の策定

- ・住民・市民・市内事業者等が主体的に検討して「市民の思い」を集約
- ・基本構想に沿った取り組みに対する円滑な事業の実施が可能

○市民等による具体的活動の導出

- ・民間事業者・市民主体による継続的な実施事業の発起
- ・実施事業から派生した取り組みも導出

② 課題

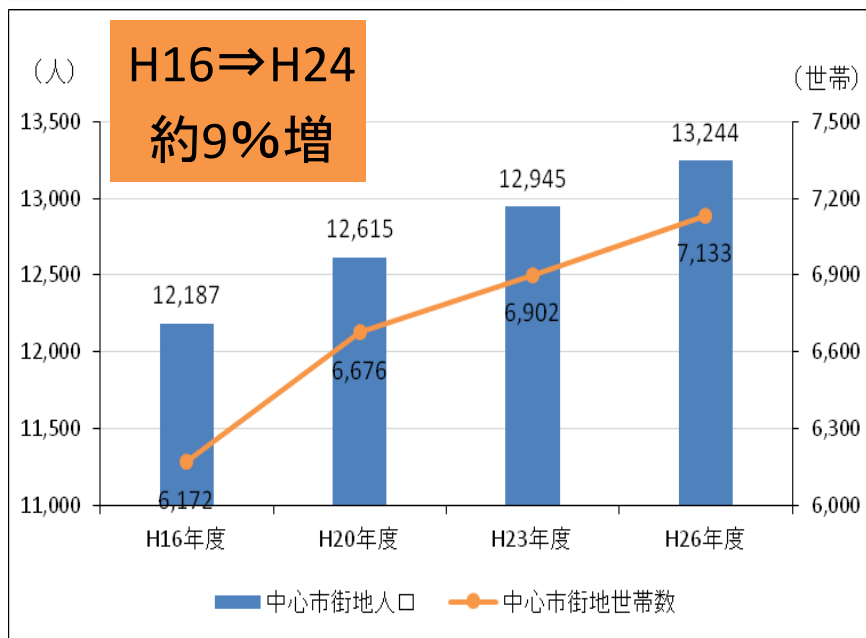
○中心市街地の活性化に取り組む関係者が共有する理念の設定

- ・活性化に取り組む関係者が共有する明確な理念・方向の設定
- ・効果を実感し、取り組みを継続していくための数値目標の設定

中心市街地の現状

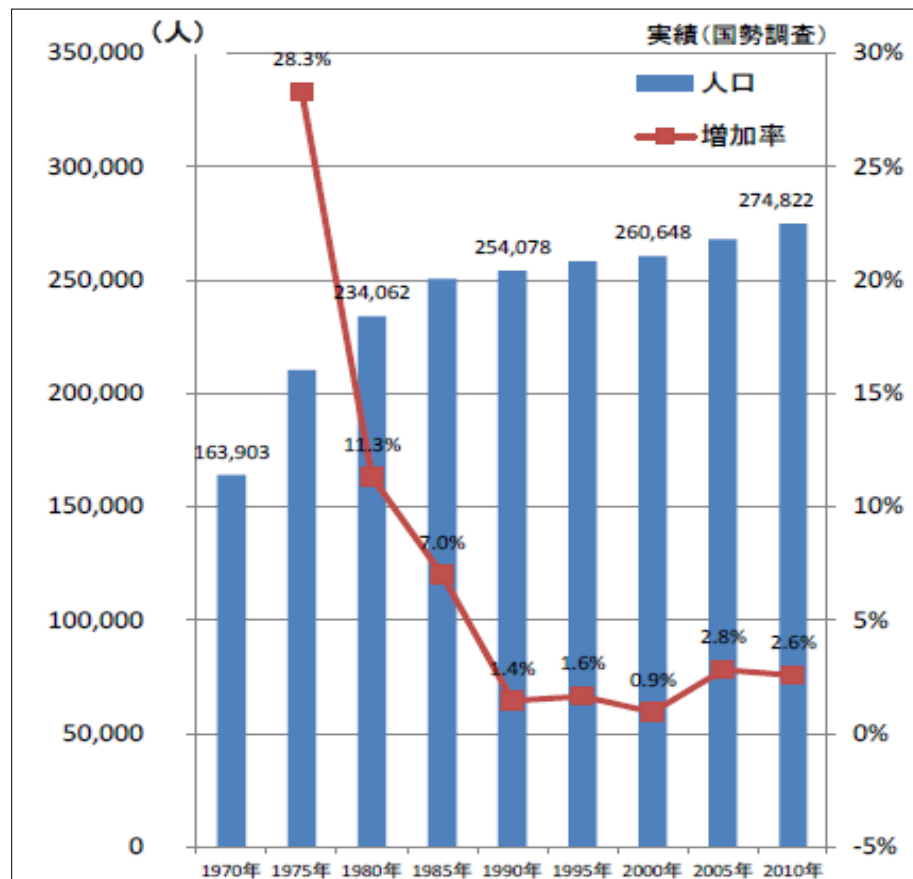
人口は増え続けている

中心市街地人口



H16～H26年度まで
人口約1,000人の増加
世帯数約950世帯の増加

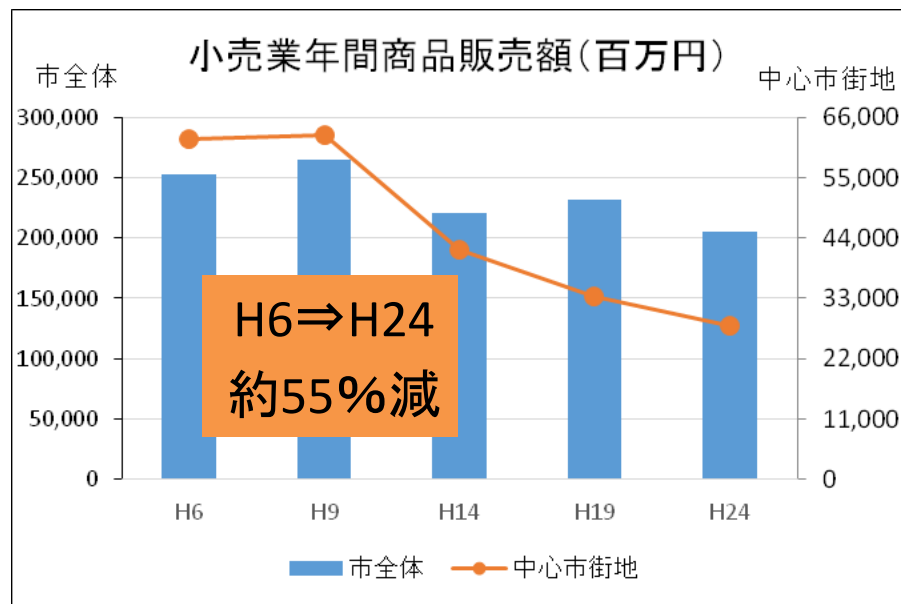
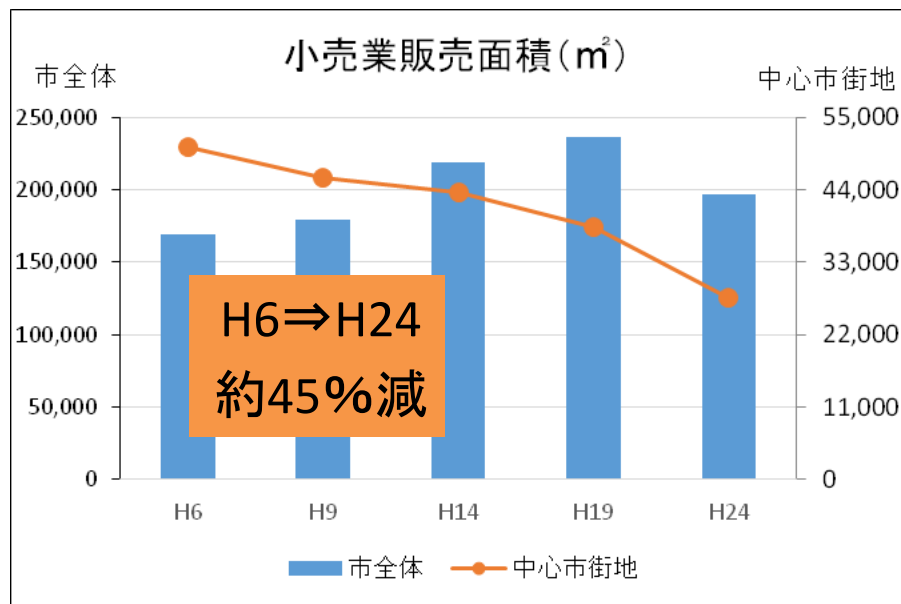
茨木市人口



中心市街地の現状

人口が増えているにもかかわらず、
商業（小売業販売面積・年間商品販売額が減少）が衰退

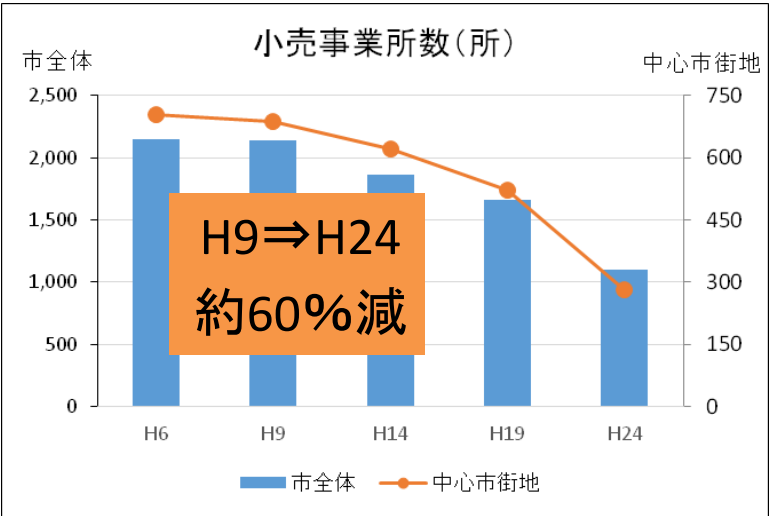
商業



中心市街地の現状

商業の担い手が将来も減少する可能性(商店主の高齢化の進行)

小売事業所数



H9～H24年度まで
約60%の減少

空き店舗率

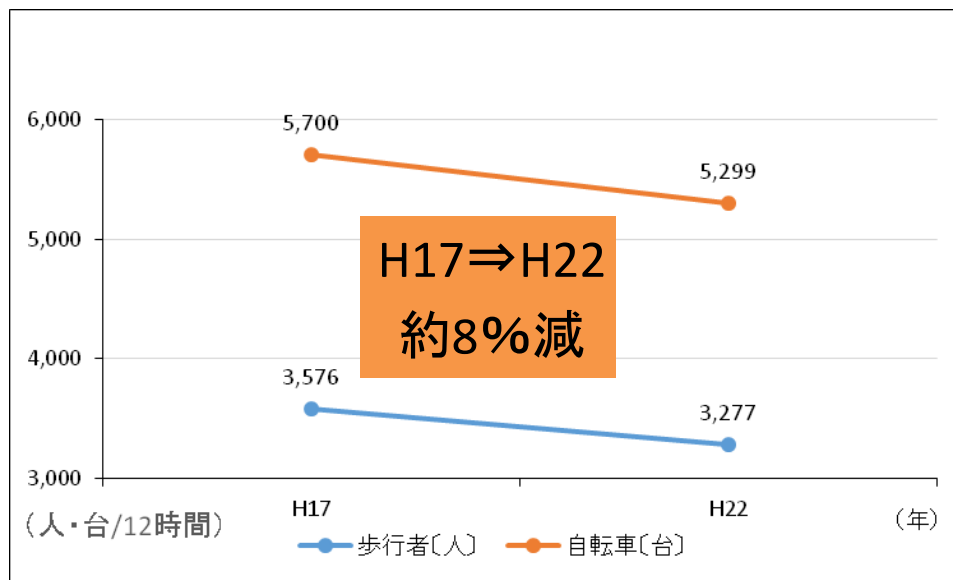
H25.10月現在

		商店街名	空き店舗率
商店街	路面店	春日商店街	12.70%
		I R 駅前商店会	8.60%
		茨木駅前本通商店会	9.40%
		中条まちづくり商店会	3.20%
		茨木阪急本通商店会	7.40%
		茨木心斎橋商店会	25.00%
		茨木中央銀座商店会	17.40%
		茨木本町センター商人	16.70%
		茨木本町商店会	21.60%
		茨木中央通東商店会	4.20%
		茨木阪急東中央商店街	0.00%
		計	(平均)
	商業ビル	ソシオいばらき商店会	20.50%
		茨木ショッピングタウン	11.10%
		ロサヴィア商店会	6.30%
		計	(平均)
商店街以外※		7.00%	
	合計	9.50%	

中心市街地の現状

人口が増えているにもかかわらず、
まちの賑わい（歩行者・自転車通行量が減少）は減少

賑わい



H17～H22年度まで
歩行者通行量・自転車通行量
ともに約8%の減少

中心市街地を取り巻く環境変化

立命館大学開学



通勤・通学者の増加

市民会館の開



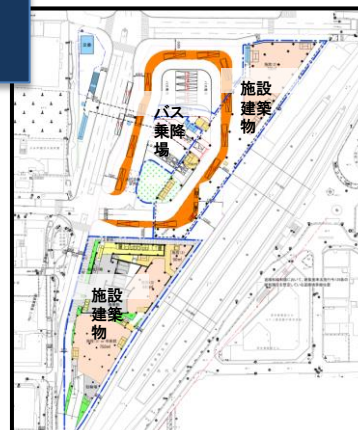
エリア内の都市機能配置の大きな変化

JR茨木駅周辺整備の進行



集客の増加見込み

周辺整備の進行



将来的な居住人口や集客の増加見込み

これらの環境変化に伴う人口増や
都市機能の向上をどう活性化に
つなげるか？

中心市街地活性化に向けて

①小売店舗減少、店舗密度低下の解消

茨木市の商業の中心地としての機能の維持
高齢者の生活を支える商業機能の維持・増進
空き店舗の解消（店舗密度の維持）

②中心市街地の回遊性の向上と賑わいの確保

増加が見込まれる鉄道駅利用者数を、歩行者通行量の増加にどのようにつなげるか
個別イベントの集客効果を、まちの恒常的な賑わいにつなげる仕掛けづくり
駅前整備や公共施設整備等に伴う集客を、中心市街地全体への回遊につなげる

③複数の大学、多様で豊富な「市民力」など固有の強みの活用

活性化の担い手としてポテンシャルが高い、大学の有する知見・豊富な人材の活用
食や文化等に関する数多くのイベントを実施する「市民力」の活用
中心市街地を経由するプロサッカーのサポーター

④旧基本計画の計画づくりプロセスの尊重

ソフト面での取り組みに一定の成果
活性化に向けた取り組み、「市民の想い」を積極的に反映

上位計画等における中心市街地の位置付け

■ 茨木市総合計画（第5次）（計画期間 平成27～36年度）

都市力がみなぎる便利で快適なまち

施策1 地域経済を支える産業をまもりそだてる

商店街の利便性の向上により、大型ショッピングセンターと共生した商業地の形成

施策6 時代と市民の期待・要請に応える活力みなぎる都市づくりをすすめる

魅力ある賑わいの拠点形成、安全で快適に利用できる歩いて楽しい商業地区の形成

■ 茨木市総合戦略（計画期間 平成27～31年度）

魅力と活力あふれる都市づくり

- ・駅前・駅周辺の整備事業の推進
- ・賑わいの核となる都市拠点の形成
- ・中心部での回遊性の高い空間の演出に取り組み、市外からの来訪者の増加を推進
- ・魅力的なイベント、商業・文化の充実

■ 茨木市都市計画マスタープラン（計画期間 平成27年度から概ね10年間）

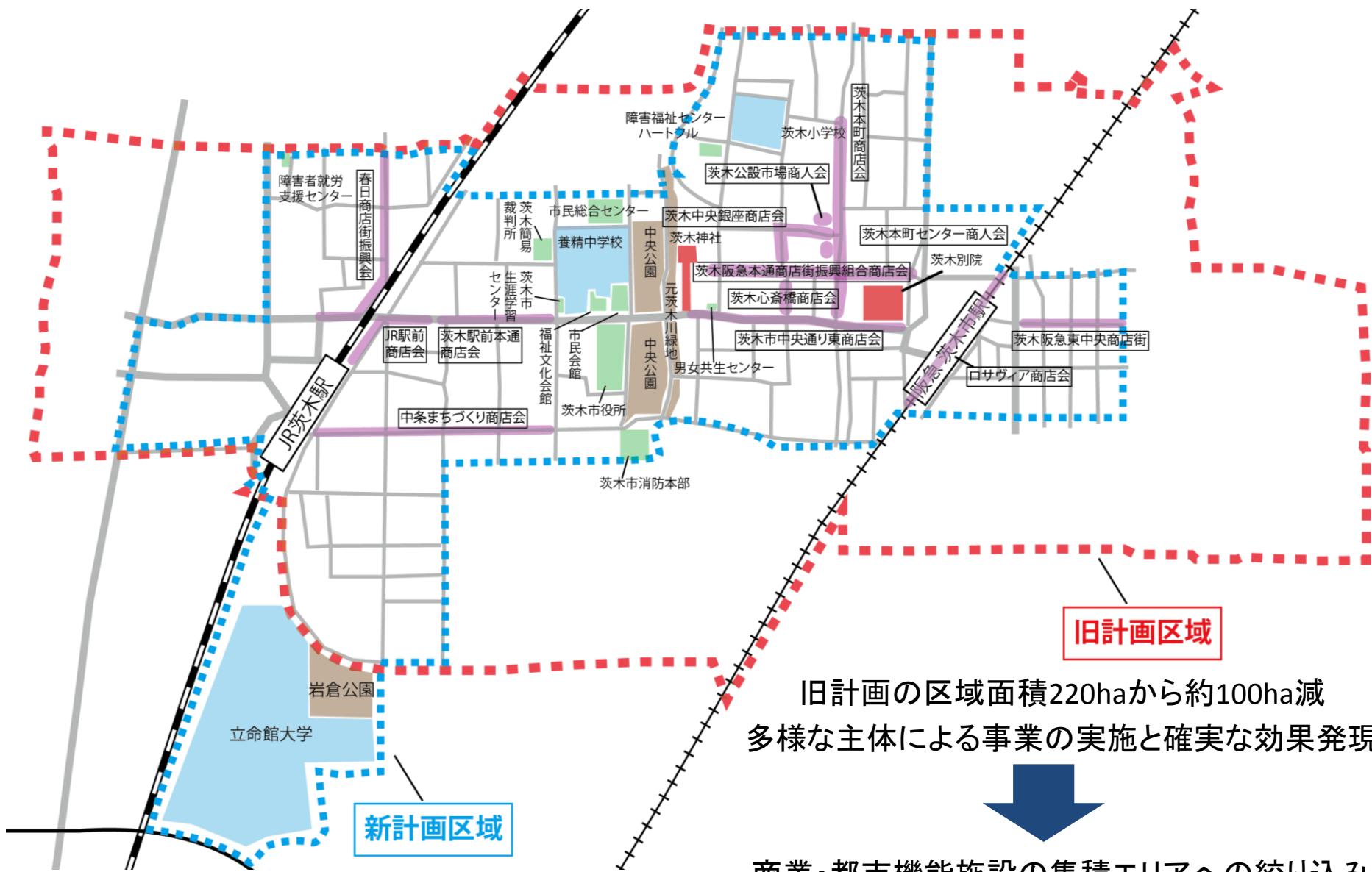
暮らしを支える「拠点」を活性化する

市民が考えたまちづくりのキャッチフレーズ「人持ち」でつながる「人カタウン」茨木

中心市街地の位置づけ＝都市拠点

生活拠点や地域拠点の機能を兼ねるとともに、広域交通結節点としての機能を充実させ、都市の魅力と活力を高める機能が集積した拠点

中心市街地の区域(案)



旧計画の区域面積220haから約100ha減
多様な主体による事業の実施と確実な効果発現



商業・都市機能施設の集積エリアへの絞り込み
立命館大学大阪いばらきキャンパスの追加

(2) 市民アンケート調査について

市民アンケート調査の考え方

市民アンケート調査の背景

○茨木市では過去に様々なアンケートを実施しているが、中心市街地に特化してどのような賑わいが求められているのかを調査したものはない。

○今後、基本計画に具体的な取り組みや事業を位置づけていくには、どのような属性の市民がどのような「賑わいの質」を求めているかを把握する必要がある。

○近年、社会環境を取り巻く時代の変化やIT技術の進化等が著しく、計画策定においては現時点での市民意識や消費行動を把握する必要がある。

■アンケート調査概要

調査方法；市民2,000人を年代別で無作為に抽出、郵送による配布・回収

調査項目；

1. 買い物・消費行動の場所について（買い物・消費行動と属性によるクロス集計）
2. 中心市街地への来訪や利用の現状について（事後検証）
3. 中心市街地の現状について（市民の活性化に対する実感に関する現状分析）
4. 中心市街地の今後について（市民の中心市街地に対するニーズ分析）

(3) 公共空間社会実験について

社会実験の考え方

社会実験の目的・背景

○基本計画に記載する事業については、具体的に事業の実施が見込まれるものに限られるため、実際に事業の実施に繋がるプレイヤーの発掘が重要である。

○JR茨木駅西口や阪急茨木市駅西口の再整備が検討されており、将来的な公共空間の活用方法を踏まえた上で再整備を行う必要があるため、現段階から市民とともに公共空間の在り方について考えていく必要がある。

○従来の使用方法にとらわれず、「まずはやってみる」ことからスタートして、実施後に今後に向けて反省点や改善点を検証する。

■社会実験実施概要

ホームページやSNS、関係者等を通じて社会実験に関する説明会・交流会の開催について広報を行い、公共空間の活用に繋がるプレイヤーの募集を行う。

- | | |
|---------|-------------------------------|
| 1. 実施期間 | 平成28年11月～平成29年3月(予定) |
| 2. 活用場所 | JR茨木駅東口駅前デッキ、クリエイトセンター前広場、その他 |

茨木市の中心部を元気にするための アンケート調査 ご協力のお願い

（茨木市中心市街地活性化基本計画策定に関するアンケート調査）

市民の皆様には、日頃から市政運営にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

茨木市では現在、今後の人口減少・少子高齢化の到来を見据え、コンパクトな都市構造の形成を図るため、JR 茨木駅、阪急茨木市駅間のエリアを中心とする中心市街地の活性化に向けた「中心市街地活性化基本計画」の策定、その他様々な検討を行っております。

本アンケート調査は、今後の中心市街地活性化の方向性や、中心市街地活性化基本計画策定にあたっての方針、計画に位置付ける事業検討にあたっての参考とするため、市民の皆様の中から 2,000 人を年代別で無作為に抽出しアンケート調査を実施することとしました。お忙しい中誠に恐縮ですが、ぜひご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、お答えいただいた内容については、統計的に処理して、他の目的に使うことはありません。また、調査票の送付、集計処理等の業務については、茨木市の委託を受けたランドブレイン株式会社が実施するものです。

ご記入いただいた調査票は、**●月●日（●）**までに、**同封の返信用封筒**

ご記入にあたってのお願い

- 1 あて名のご本人がご記入ください。
- 2 回答は、あてはまる番号を選び、その番号を○印で囲んでください。
- 3 「1つだけ」「3つまで」など回答が限られている質問では、あなたがもっとも良くあてはまるとお考えになる回答を指定の数以内で選び、○印をつけてください。
- 4 「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが（ ）内に、なるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 5 すべてのご記入が終わりましたら、記入もれや間違いがないか、お手数ですがもう一度お確かめください。
- 6 このアンケートに関するご質問は下記までお願いいたします。

茨木市 都市整備部 市街地新生課
Tel072-620-1821

計画における中心市街地の区域（案）

現在、下図の破線枠内を中心市街地活性化基本計画における中心市街地として設定する予定です。アンケート調査の設問は、この中心市街地の区域内についてのお考え・意見等をご記入ください。



■■■■■■■■■■ 中心市街地の区域（案）

社会実験

2016-2017
11月から2月の期間限定実施

飲食OK 音楽OK マルシェOK
スポーツOK アートOK 趣味OK!!

茨木の
公共空間を、
みんなが
楽しめる空間へ。

候補その1



JR茨木駅
東口駅前デッキ

候補その2



クリエイト
センター前広場
(中央公園北側広場)

候補その他

相談次第で
他にも使える公共空間
が見つかるかも!

今回の社会実験の合い言葉は
「やるからこそ、わかる」
「やってから、検討する」

この実績が
未来の公共空間の使い方を
左右する...?

この社会実験は、JR茨木駅から阪急茨木市駅までの間の地域を、にぎわいと魅力あふれる空間へとしていくために実施します。従来のイメージに捉われない、多様な取り組み主体による新たな事業提案をお待ちしています。

駅前
朝ごはん



茨木産
朝採れ
野菜マルシェ



アートの
展示



ライブ



オープン
カフェ

ダンス大会



まちの公共空間を使って
なんかやってみたい人、
大募集!

相談会 & 交流会 開催

2016年 月 日 時~ 時 @△△△△

この社会実験の相談会 & 交流会を行います。(市内在住・在勤の方に限ります)

“どこまででありか、どこまでNGか”の説明や、“ここは使えないの?”といった相談にもできる限り応じます。

交流会では、参加者同志でそれぞれの公共空間の使い方アイデアを話し合ったり、実現のための情報交換を行います。

お問い合わせ先.....

ご参加希望の方は裏面の必要事項をご記入の上、メールまたはFAXにてお申し込みください。

茨木の公共空間を、なぜか遊べる空間へ！

社会実験 説明会

説明会にきた人にだけ開かれる、新たなチャレンジ！

この社会実験は、公共空間の利用形態が、お祭りやイベント等の「非日常」からオープンカフェやマルシェ等の「日常」へシフトしていくことをポイントとしています。

「公共空間の利用の可能性を広げてくれるのであれば、期間限定で場をひらきましょう」という考え・希望から、それに向けた準備や実践、「日常」としての公共空間の開き方までを社会実験していきます。

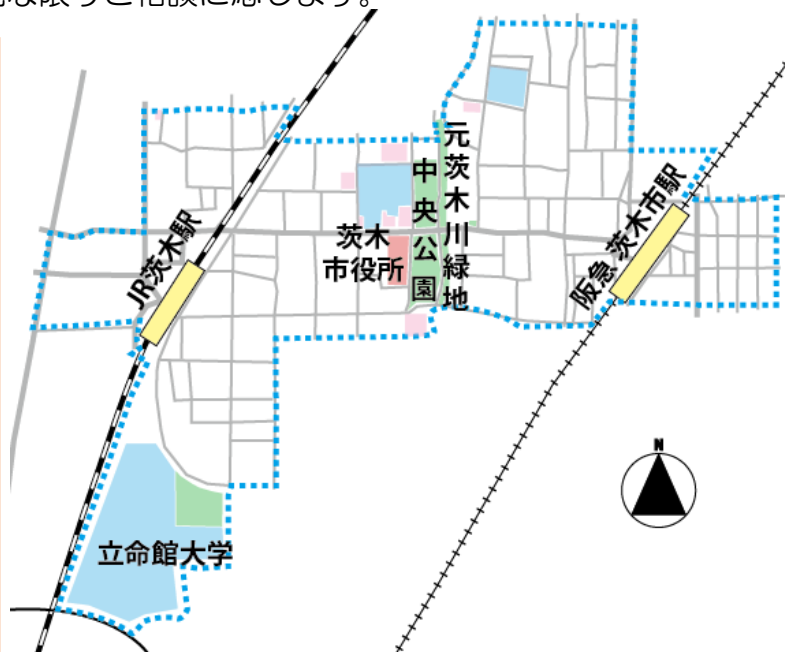
また、表面の候補だけではなく、中心市街地（※下図点線内）なら、「ここを、こんな風に使いたい」といったご希望・企画にも、可能な限りご相談に応じます。

応募締め切り

〇月〇日（△）まで

以下のいずれかの方法で、①氏名
②所属（会社・学校等） ③年齢 ④住所
⑤連絡先（電話・FAX・E-mail）
をご連絡ください。

- 1) 申込書を郵送またはご持参の場合
〒567-8505 茨木市駅前 3-8-13
茨木市役所南館5階 市街地新生課
- 2) メールでお申込みの場合
shigaichi@city.ibaraki.lg.jp
- 3) FAXでお申込みの場合
072-620-1730



-----キリトリ線-----

申し込み書

記入日 月 日

フリガナ 氏名	所属	年齢
住所（〒 - ）		
電話番号：		FAX 番号：
メールアドレス：		
やってみたい公共空間の利活用のイメージ（簡単にご記入ください）：		